

看護学教育におけるFDマザーマップ Ver. 2

1) 基盤

基盤			
要素	レベルⅠ 知る	レベルⅡ 自立してできる	レベルⅢ 支援・指導、拡大できる
1. 看護系大学教員としての基礎力			
看護学の本質的理解	<p>基盤1-1.1</p> <p>①看護学が、看護実践の根拠の追究、看護の価値の創造およびその発展を目指す科学であることを知る</p> <p>②隣科学との関連において、看護学独自の意義や役割を知る</p>	<p>基盤1-1.2</p> <p>①看護学が、看護実践の根拠の追究、看護の価値の創造およびその発展を目指す科学であることをふまえて、教員活動を展開できる</p> <p>②看護学独自の意義や役割を自覚しながら、教員活動を展開できる</p>	<p>基盤1-1.3</p> <p>①看護学が、看護実践の根拠の追究、看護の価値の創造およびその発展を目指す科学であることをふまえて、他の教員を支援できる</p> <p>②看護学独自の意義や役割を自覚しながら、他の教員を支援できる</p>
看護学に対する興味・関心	<p>基盤1-2.1</p> <p>①自身の看護学に対する興味・関心が、教員活動のあり方に影響を及ぼすことを知る</p>	<p>基盤1-2.2</p> <p>①教員活動を通じ、看護学に対する興味・関心を深化・発展させ続けることができる</p>	<p>基盤1-2.3</p> <p>①教員活動を通じ、看護学に対する興味・関心を深化・発展させ続ける方向で、他の教員を支援できる</p>
教育活動と研究活動のバランス	<p>基盤1-3.1</p> <p>①看護学に関する教育と研究が看護系大学教員としての主要な責務であることを理解し、教育と研究に費やす時間の配分を現実的に考える必要性を知る</p>	<p>基盤1-3.2</p> <p>①教育と研究に費やす時間の配分を現実的に検討し、バランスのよい教員活動を積極的に展開することができる</p>	<p>基盤1-3.3</p> <p>①教育と研究のバランスのよい教員活動を展開する環境を組織的に整え、他の教員を支援できる</p>
教員活動に対する自己評価	<p>基盤1-4.1</p> <p>①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況等をふまえ、自己の教員活動を評価し改善する意義と方法について知る</p> <p>②教員活動を継続的に改善するためのFDや学習資源の存在について知る</p>	<p>基盤1-4.2</p> <p>①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況等をふまえ、自己の教員活動を評価し改善することができる</p> <p>②FDや学習資源を必要に応じて活用し、自身の教員活動を継続的に改善することができる</p>	<p>基盤1-4.3</p> <p>①経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況等をふまえた、教員活動の自己評価について、他の教員を支援できる</p> <p>②FDプログラムや学習資源を組織的に整え、他の教員を支援できる</p>
看護系大学教員としてのキャリア開発	<p>基盤1-5.1</p> <p>①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況、ワークライフバランス等をふまえ、柔軟に自身の学習ニーズやキャリアパスを検討する必要性を知る</p>	<p>基盤1-5.2</p> <p>①自己の経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況、ワークライフバランス等をふまえ、柔軟に自身の学習ニーズやキャリアパスを検討し、実行に移すことができる</p>	<p>基盤1-5.3</p> <p>①経験や能力、看護職の社会的役割、自大学の置かれた状況、ワークライフバランス等をふまえたキャリア開発について、他の教員を支援できる</p>
2. 看護専門職としての基礎力			
看護専門職としての健康管理	<p>基盤2-1.1</p> <p>①自身の生活や職場環境の特徴、変化の傾向を把握し、自分の健康との関係を知る</p> <p>②自身の24時間の生活を通して、健康の原理原則を知る</p> <p>③成長発達各段階における社会役割の課題、心身の変化の特徴を知る</p> <p>④健康問題、ストレスの発生に対し、対症療法ではなく、問題発生の根本的な原因を探る必要性を知る</p>	<p>基盤2-1.2</p> <p>①自身の生活や職場環境の特徴、変化の傾向を把握し、よりよい健康状態に向けて、生活を調整することができる</p> <p>②健康的な生活の原理原則を毎日の生活の中で検証し、外界の変化に合わせて調整することができる</p> <p>③成長発達各段階における社会役割をふまえ、心身のバランスを維持しながら、家庭生活、職業生活を継続・発展させることができる</p> <p>④健康問題、ストレスの根本原因を探り、自身と周囲の自然・社会環境との調和が取れた状態をつくり出すことができる</p>	<p>基盤2-1.3</p> <p>①生活・職場環境の特徴、変化の傾向を把握し、よりよい健康状態に向けて、生活を調整することの意義を、学生や他の教員に示すことができる</p> <p>②健康的な生活の原理原則を毎日の生活の中で検証し、外界の変化に合わせて調整することの意義を、学生や他の教員に示すことができる</p> <p>③成長発達各段階における社会役割をふまえ、心身のバランスを維持しながら、家庭生活、職業生活を継続・発展させる方向で、学生や他の教員を支援することができる</p> <p>④健康問題、ストレスの根本原因を探り、自身と周囲の自然・社会環境との調和が取れた状態をつくり出す意義を、学生や他の教員に示すことができる</p>
看護観	<p>基盤2-2.1</p> <p>①看護が対象者の健康を維持、促進する働きであることをふまえて、自身の経験を振り返り、自己の看護観を言語化することができる</p>	<p>基盤2-2.2</p> <p>①看護実践経験や教育経験等を統合し自己の看護観を深化できる</p>	<p>基盤2-2.3</p> <p>①看護実践や教育の経験を統合して看護観を深化させ、教育的観点から他の教員に示すことができる</p>
看護専門職の社会的役割	<p>基盤2-3.1</p> <p>①看護専門職が社会において果たすべき役割を自覚する</p> <p>②最新の保健医療福祉の動向や研究成果を把握する</p>	<p>基盤2-3.2</p> <p>①看護専門職が社会において果たすべき役割を自覚し、それらを意識した看護活動を展開できる</p> <p>②最新の保健医療福祉の動向や研究成果を常に把握し、それらを意識した看護活動を展開できる</p>	<p>基盤2-3.3</p> <p>①看護専門職が社会において果たすべき役割を自覚し、それらを意識した教員活動を展開することができるように、環境を組織的に整えることができる</p> <p>②最新の保健医療福祉の動向や研究成果を常に把握し、それらを意識した教員活動を展開できるように、環境を組織的に整えることができる</p>
看護専門職としての自律性	<p>基盤2-4.1.2</p> <p>①看護専門職としての自律性について自身の考えを述べることができる</p> <p>②よりよい看護を常に追求し、自身の看護活動を自己評価し続けることができる</p>	<p>基盤2-4.2</p> <p>①常に看護専門職としての倫理観を念頭において行動できる</p> <p>②看護・看護学教育において生じた倫理的問題に適切に対処できる</p>	<p>基盤2-4.3</p> <p>①部下や後輩の自律性を尊重できる</p> <p>②よりよい看護を常に追求し、自身の看護活動を自己評価し続ける態度を、教育的観点から他の教員に示すことができる</p>
看護専門職としての倫理観	<p>基盤2-5.1</p> <p>①看護専門職としての倫理観を言語化することができる</p> <p>②看護・看護学教育において生じやすい倫理的問題を知る</p>	<p>基盤2-5.2</p> <p>①常に看護専門職としての倫理観を念頭において行動できる</p> <p>②看護・看護学教育において生じた倫理的問題に適切に対処できる</p>	<p>基盤2-5.3</p> <p>①常に看護専門職としての倫理観を念頭において行動し、他の教員のモデルとなり、他の教員に助言することができる</p> <p>②看護・看護学教育において生じた倫理的問題に適切に対処し、他の教員のモデルとなり、他の教員に助言することができる</p>
看護実践におけるスキルの重要性	<p>基盤2-6.1</p> <p>①看護実践におけるスキルの重要性を知る</p>	<p>基盤2-6.2</p> <p>①自身の立場で可能な範囲において看護実践スキルの維持・向上に努めることができる</p>	<p>基盤2-6.3</p> <p>①看護実践スキルの維持・向上のための環境を組織的に整え、他の教員を支援できる</p>

2) 教育

要素	レベルⅠ 知る	レベルⅡ 自立してできる	レベルⅢ 支援・指導、拡大できる
1. 教育者マインド	教育1-1 ①教育が他者を支援するはたからであることをふまえ、自身の教育者マインドの必要性を知る ②教育者マインドとして自大学で重視する内容を知る	教育1-1-2 ①教育者マインドをもっている ②教育者マインドとして自大学で重視する内容を理解し、説明できる	教育1-1-3 ①教育者マインドの醸成を支援できる ②教育者マインドとして自大学で重視する内容を検討できる
2. カリキュラム編成	教育2-1 ①各大学のカリキュラムポリシーと国家試験受験資格の要件(保健師助産師看護師学校養成所指定規則)に基づき、カリキュラムが編成されることを知る ②生活背景や人生経験の異なる多様な学生に、生活支援を基盤とする看護学を教授する特徴や工夫の必要性を知る	教育2-1-2 ①各大学のカリキュラムポリシーと国家試験受験資格の要件(保健師助産師看護師学校養成所指定規則)に基づいて、カリキュラムを編成できる ②生活背景や人生経験の異なる多様な学生に、生活支援を基盤とする看護学を教授する特徴や工夫の必要性を理解し、説明できる	教育2-1-3 ①各大学のカリキュラムポリシーと国家試験受験資格の要件(保健師助産師看護師学校養成所指定規則)に基づいたカリキュラム編成について、他の教員に助言できる ②生活背景や人生経験の異なる多様な学生に、生活支援を基盤とする看護学を教授する特徴や工夫の必要性について、他の教員に助言できる
3. 入学者選抜	教育3-1 ①自大学の特徴、地域性をふまえて、卒業時到達目標やアドミッションポリシーが決定されることを知る ②アドミッションポリシーに応じた選抜方法について知る ③アドミッションポリシーを多様な場で広報する必要性を知る ④自大学の入試関連の組織について知る	教育3-1-2 ①自大学の特徴、地域性をふまえて、卒業時到達目標やアドミッションポリシーを理解し、説明できる ②アドミッションポリシーに応じた選抜ができる ③アドミッションポリシーを多様な場で広報できる ④自大学の入試関連の組織において活動できる	教育3-1-3 ①自大学の特徴、地域性をふまえて、卒業時到達目標やアドミッションポリシーの策定ができる ②アドミッションポリシーに応じた選抜ができる環境を整える ③アドミッションポリシーを多様な場で広報できる環境を整える ④自大学の入試関連の委員会やワーキンググループ等を組織できる
4. 授業運営	教育4-1-1 ①生活支援学習の基盤としての看護学生の生活体験把握の必要性を知る ②学生の既習科目と学習習得状況の把握の必要性を知る ③各科目受講前の学生のレディネスをふまえて担当科目の目的・目標を設定する必要性を知る ④他の科目内容、関連領域知識との関係を把握した上で、授業設計する必要性を知る ⑤看護概念と実際の看護現象を関連づけて学生が理解できる効果的な教材作成の必要性を知る ⑥最新の保健医療福祉の動向や研究成果を授業に活用する必要性を知る	教育4-1-2 ①生活支援学習の基盤としての学生の生活体験を把握できる ②学生の既習科目と学習習得状況の把握ができる ③各科目受講前の学生のレディネスをふまえて担当科目の目的・目標を設定できる ④他の科目内容、関連領域知識との関係を把握した上で、授業設計できる ⑤看護概念と実際の看護現象を関連づけて学生が理解できる効果的な教材作成できる ⑥最新の保健医療福祉の動向や研究成果を授業に活用できる	教育4-1-3 ①生活支援学習の基盤としての学生の生活体験把握について、他の教員に助言できる ②学生の既習科目と学習習得状況把握について、他の教員に助言できる ③各科目受講前の学生のレディネスをふまえて担当科目の目的・目標の設定について、他の教員に助言できる ④他の科目内容、関連領域知識との関係を把握した上で授業設計について、他の教員に助言できる ⑤看護概念と実際の看護現象を関連づけて学生が理解できる効果的な教材作成について、他の教員に助言できる ⑥最新の保健医療福祉の動向や研究成果の授業への活用について、他の教員に助言できる
授業展開	教育4-2-1 ①担当科目の目的・目標を明示し、学習意欲を高める必要性を知る ②看護概念と看護現象の関連を論理的かつ臨場感をもって説明する必要性について知る ③学生の主体的学習への支援(看護専門職の自律性を育む点が看護学教育の特徴) ④対人援助の学習時は、学生の主体性を尊重しながらも、行為の倫理性を強調した学習支援が必要であることを知る ⑤対人援助の学習時、学生とケア対象者との相互作用を通して、学生の援助者としての課題を見極め、学生に必要な学習支援をする必要性を知る	教育4-2-2 ①担当科目の目的・目標を明示し、学習意欲を高めることができる ②看護概念と看護現象の関連について、論理的かつ臨場感をもって説明できる ③学生の主体的学習への支援ができる(看護専門職の自律性を育む点が看護学教育の特徴) ④対人援助の学習時は、学生の主体性を尊重しながらも、行為の倫理性を強調した学習支援ができる ⑤対人援助の学習時、学生とケア対象者との相互作用を通して、学生の援助者としての課題を見極め、学生に必要な学習支援ができる	教育4-2-3 ①担当科目の目的・目標を明示し学習意欲を高めることについて、他の教員に助言できる ②看護概念と看護現象の関連の説明について、他の教員に助言できる ③学生の主体的学習への支援(看護専門職の自律性を育む点が看護学教育の特徴)について、他の教員に助言できる ④対人援助の学習時、学生の主体性を尊重しながらも行為の倫理性を強調した学習支援について、他の教員に助言できる ⑤対人援助の学習時、学生とケア対象者との相互作用を通して学生の援助者としての課題を見極め、学生に必要な学習支援をすることについて、他の教員に助言できる
評価とフィードバック	教育4-3-1 ①担当科目の目標に基づく学生の到達度評価について知る ②フィードバックをふまえて、各担当科目の評価を学生へフィードバックする重要性を知る ③担当科目履修後の学生の自己学習への動機づけの必要性を知る	教育4-3-2 ①担当科目の目標に基づく学生の到達度を評価できる ②フィードバックをふまえて、各担当科目の評価を学生へフィードバックができる ③担当科目履修後の学生の自己学習への動機づけができる	教育4-3-3 ①担当科目の目標に基づく学生の到達度評価について、他の教員に助言できる ②フィードバックをふまえて、各担当科目の評価を学生へフィードバックすることについて、他の教員に助言できる ③担当科目履修後の学生の自己学習への動機づけについて、他の教員に助言できる
5. 臨地実習指導	教育5-1-1 ①実習目的・目標に基づき実習施設を選定する必要性を知る ②実習施設の特徴を理解することの重要性を知る ③実習施設の関係者との連携・協働の必要性を知る ④実習施設の看護の質の向上、実習指導者養成に対して協力・支援の必要性について知る ⑤実習中のインシデント・アクシデントに関する報告相談、対処の体制を整えることの必要性について知る	教育5-1-2 ①実習目的・目標に基づき実習施設を選定できる ②実習施設の特徴を理解し、説明できる ③実習施設の関係者との連携・協働をすすめることができる ④実習施設の看護の質の向上、実習指導者養成に対して協力・支援ができる ⑤実習中のインシデント・アクシデントに関する報告相談、対処の体制を整備できる	教育5-1-3 ①実習目的・目標に基づき実習施設選定について、他の教員に助言できる ②実習施設の特徴の理解について、他の教員に助言できる ③実習施設の関係者との連携・協働について、他の教員に助言できる ④実習施設の看護の質の向上、実習指導者養成に対する協力・支援について、他の教員に助言できる ⑤実習中のインシデント・アクシデントに関する報告相談、対処の体制について、他の教員に助言できる
臨地での柔軟な支援方法の工夫	教育5-2-1 ①学生が遭遇しうる看護現象の予測の必要性を知る ②学生の日々のレディネス把握の必要性を知る ③学生と関連の人々との相互作用を把握する必要性を知る ④関連の人々との役割分担を行い指導をすすめる必要性を知る ⑤実践者の判断・行動の教材化の必要性を知る	教育5-2-2 ①学生が遭遇しうる看護現象を予測できる ②学生の日々のレディネス把握を把握できる ③学生と関連の人々との相互作用を把握できる ④関連の人々との役割分担を行い指導をすすめることができる ⑤実践者の判断・行動を教材化できる	教育5-2-3 ①学生が遭遇しうる看護現象の予測について、他の教員に助言できる ②学生の日々のレディネス把握について、他の教員に助言できる ③学生と関連の人々との相互作用把握について、他の教員に助言できる ④関連の人々との指導上の役割分担について、他の教員に助言できる ⑤実践者の判断・行動の教材化について、他の教員に助言できる
学生の実習経験と看護概念を関連づける学習支援	教育5-3-1 ①実習体験の中から、看護学の学習に必要な場面を選定する必要性を知る ②学生の学習のタイミングを見極め、振り返りや自己学習を促すことの必要性について知る ③学生の体験と学ぶべき看護概念を関連づけ、学生が実施・観察したことを意味づけができるよう支援する必要性について知る	教育5-3-2 ①実習体験の中から、看護学の学習に必要な場面を選定できる ②学生の学習のタイミングを見極め、振り返りや自己学習を促すことができる ③学生の体験と学ぶべき看護概念を関連づけ、学生が実施・観察したことを意味づけができるよう支援することができる	教育5-3-3 ①実習体験の中から、看護学の学習に必要な場面を選定について、他の教員に助言できる ②学生の学習のタイミングを見極め、振り返りや自己学習を促す支援について、他の教員に助言できる ③学生の体験と学ぶべき看護概念を関連づけ、学生が実施・観察したことを意味づけができる支援について、他の教員に助言できる
臨地での主体的学習への支援	教育5-4-1 ①時間的制約・対象者との相互作用の影響をふまえ、事実に基づき、自己評価を促すことで学習を支援することの必要性について知る	教育5-4-2 ①時間的制約・対象者との相互作用の影響をふまえ、事実に基づき、自己評価を促すことで学習を支援できる	教育5-4-3 ①時間的制約・対象者との相互作用の影響をふまえ、事実に基づき、自己評価を促す学習支援について、他の教員に助言できる
臨地での倫理的学習への支援	教育5-5-1 ①対象者への看護を実現するために、学生のケアの不足を補う必要性を判断し、学生に説明する必要性を知る ②学生の安全の確保の必要性を知る ③学生が自らハラスメントを予防・対処するための方法等について指導することの必要性を知る ④インシデント・アクシデントへの注意喚起、対処等の学生への指導の必要性を知る	教育5-5-2 ①対象者への看護を実現するために、学生のケアの不足を補う必要性を判断し、学生に説明することができる ②学生の安全の確保ができる ③学生がハラスメントを自ら予防するための対処法等を指導できる ④インシデント・アクシデントへの注意喚起、対処等について学生に指導できる	教育5-5-3 ①対象者への看護を実現するために、学生のケアの不足を補う必要性について、他の教員に助言できる ②学生の安全の確保について、他の教員に助言できる ③学生が自らハラスメントを予防・対処する方法等について、他の教員に助言できる ④インシデント・アクシデントへの注意喚起、対処等の学生への指導について、他の教員に助言できる
6. 学生支援	教育6-1-1 ①学生相談に必要な教員の態度・対応を知る ②学生相談の体制、教員の役割・責任範囲(委員会・専門家との連携方法、抱え込まない等)を知る ③学生相談の必要性を知る(健康問題、メンタルヘルス、ハラスメント、経済的困難等)	教育6-1-2 ①学生相談に必要な教員の態度・対応が実践できる ②学生相談の体制、教員の役割・責任範囲(委員会・専門家との連携方法、抱え込まない等)を理解した上で、学生を支援できる ③学生相談の必要性を把握し(健康問題、メンタルヘルス、ハラスメント、経済的困難等)、問題解決への支援ができる	教育6-1-3 ①学生相談に必要な教員の態度・対応について、他の教員に助言できる ②学生相談の体制、教員の役割・責任範囲(委員会・専門家との連携方法、抱え込まない等)を理解し、他の教員に助言できる ③学生相談の必要性を把握し(健康問題、メンタルヘルス、ハラスメント、経済的困難等)、組織的な問題解決につなげるができる
キャリア支援	教育6-2-1 ①将来のキャリア形成にかかわる支援方法(多様な看護職キャリアパス、転職・転学に関する情報伝達等)を知る ②国家試験受験にかかわる基本的な情報(スケジュール、出題傾向、模擬試験等)を把握できる ③看護独自の就職支援(関連情報の伝達、就職活動への助言等)の重要性について知る	教育6-2-2 ①将来のキャリア形成に関して、学生に情報提供、助言(看護職を志望しない学生に対する支援等)ができる ②国家試験受験にかかわる支援(関連情報の伝達、自己学習への支援、担当科目との関連把握等)ができる ③看護独自の就職支援(関連情報の伝達、就職活動への助言等)ができる	教育6-2-3 ①将来のキャリア形成に関する学生への情報提供、助言(看護職を志望しない学生に対する支援等)について、他の教員に助言できる ②国家試験受験にかかわる支援(関連情報の伝達、自己学習への支援、担当科目との関連把握等)について、他の教員に助言できる ③看護独自の就職支援(関連情報の伝達、就職活動への助言等)について、他の教員に助言できる ④近隣地域、関連の保健医療福祉機関と就職に関する情報交換を行い、他の教員に情報伝達・助言できる
国際交流の推進	教育6-3-1 ①留学生の文化や生活スタイルを配慮した学生支援の必要性を知る ②留学生にとっての日本の魅力を理解し、それを深めるための支援の必要性を知る ③学生の国際交流を促進するために必要な支援について知る ④国際交流を組織的に実施することの必要性について知る	教育6-3-2 ①留学生の文化や生活スタイルを配慮した学生支援ができる ②留学生にとっての日本の魅力を理解し、それを深めるための支援ができる ③学生の国際交流を促進するために必要な支援ができる ④国際交流を組織的に実施できるよう協力できる	教育6-3-3 ①留学生の文化や生活スタイルを配慮した学生支援について、他の教員に助言できる ②留学生にとって魅力的な日本理解を深めるための支援について、他の教員に助言できる ③学生の国際交流を促進するために必要な支援について、他の教員に助言できる ④国際交流を組織的に実施できるよう、環境や体制を整備する

3) 研究

研究	レベルⅠ 知る	レベルⅡ 自立してできる	レベルⅢ 支援・指導・推進(発展)できる
1. 研究者マインド	研究1-1.1 ①研究者マインドの必要性を知る	研究1-1.2 ①研究者マインドをもって研究を遂行できる	研究1-1.3 ①研究者マインドの醸成を支援できる
	(研究者マインドの例) ・クリティカルシンキング ・真理を追究し、偏見や先入観や世間的な常識に惑わされることのない態度 ・異なる意見や他者を尊重する態度		
2. 研究遂行能力			
看護学研究の理解	研究2-1.1 ①看護学研究とは何であり、何ができるのかについて知る	研究2-1.2 ①看護学研究とは何であり、何ができるのかについて理解して、研究できる	研究2-1.3 ①看護学研究とは何であり、何ができるのかについて助言できる
看護学研究の課題の見つけ方	研究2-2.1 ①看護学研究として独自性・創造性のある研究課題の設定について知る	研究2-2.2 ①看護学研究として独自性・創造性のある研究課題を設定できる	研究2-2.3 ①看護学研究として独自性・創造性のある研究課題の設定を支援できる
分野横断的な研究の進め方	研究2-3.1 ①分野横断的な研究について知る	研究2-3.2 ①分野横断的な研究に参加できる	研究2-3.3 ①分野横断的な研究を企画・運営できる
研究フィールドとの関係の取り方	研究2-4.1 ①研究フィールドとの関係の取り方を知る	研究2-4.2 ①研究フィールドと良好な関係を展開できる	研究2-4.3 ①研究フィールドとの関係の取り方を支援し、発展できる
データの取り扱いとその方法	研究2-5.1 ①データの特性に合わせた適切な分析方法を知る	研究2-5.2 ①データの特性に合わせて適切に分析できる	研究2-5.3 ①データの特性に合わせた適切な分析を支援できる
倫理的配慮 (知的財産権、利益相反、オーサーシップ含む)	研究2-6.1 ①看護学研究における倫理について知る	研究2-6.2 ①看護学研究における倫理をふまえて研究できる	研究2-6.3 ①看護学研究における倫理について助言できる
看護学研究論文の書き方	研究2-7.1 ①学術的な著述の仕方について知る	研究2-7.2 ①学術的な著述ができる	研究2-7.3 ①学術的な著述について助言できる
研究論文のクリティークの仕方	研究2-8.1 ①研究論文のクリティークについて知る	研究2-8.2 ①研究論文をクリティークできる	研究2-8.3 ①研究論文のクリティークについて助言できる
研究成果をもって 看護実践の場へコミットする	研究2-9.1 ①研究成果を用いて看護実践の場へコミットし、研究成果を還元することの重要性を知る	研究2-9.2 ①研究成果を用いて看護実践の場へコミットし、研究成果を還元できる	研究2-9.3 ①研究成果を用いて看護実践の場へコミットし、研究成果の還元について助言し推進できる
3. 研究マネジメント・調整能力			
時間のマネジメント	研究3-1.1 ①実習や込み入ったカリキュラムの中で時間を効率的にマネジメントし、研究に費やす時間を確保する必要性について知る	研究3-1.2 ①実習や込み入ったカリキュラムの中で時間を効率的にマネジメントし、研究に費やす時間を確保できる	研究3-1.3 ①実習や込み入ったカリキュラムの中で研究に費やす時間のマネジメントができるように支援できる
研究費の獲得と適切な運用	研究3-2.1 ①競争的資金の獲得に向けて、申請して仕組みを知る ②研究費の適切な運用について知る	研究3-2.2 ①競争的資金を獲得できる ②研究費を適切に運用できる	研究3-2.3 ①競争的資金を獲得し、他の教員に助言できる ②研究費を適切に運用し、他の教員に助言できる
研究者としての人的資源の形成やマネジメント	研究3-3.1 ①人的資源の形成やマネジメントについて知る	研究3-3.2 ①人的資源の形成やマネジメントができる	研究3-3.3 ①人的資源の形成やマネジメントについて助言・支援できる
研究環境の整備	研究3-4.1 ①研究活動を促進するリソースや環境について知る	研究3-4.2 ①研究活動を促進するリソースや環境を活用しながら研究を遂行できる	研究3-4.3 ①研究活動を促進するリソースや環境を整備し、研究活動の推進を支援できる
組織的研究活動の推進	研究3-5.1 ①組織的研究活動の必要性を知る	研究3-5.2 ①組織的研究活動に参加できる	研究3-5.3 ①組織的研究活動を遂行し、他の教員に助言できる
4. 研究発信の意義と理解			
発信する研究の社会的意義の理解			
看護学教育・実践の質の向上	研究4-1.1 ①看護学教育・実践の質の向上に対する研究の影響を知る	研究4-1.2 ①看護学教育・実践の質の向上に対する研究の影響を発信できる	研究4-1.3 ①看護学教育・実践の質の向上に対して研究成果の影響を用い、社会的、政策的、国際的展開ができる
看護学研究の発展	研究4-2.1 ①自身の研究が看護学研究の発展につながっていることを知る	研究4-2.2 ①自身の研究を通して看護学研究の発展に寄与できる	研究4-2.3 ①自身のプロジェクト研究を通して看護学研究の発展に寄与できる
新しい変化への対応	研究4-3.1 ①時代、地域特性と共に変化する看護学へのニーズ、関心事を知る	研究4-3.2 ①時代、地域特性と共に変化する看護学へのニーズ、関心事に研究成果を応用できる	研究4-3.3 ①時代、地域特性と共に変化する看護学へのニーズ、関心事に研究成果の活用を支援できる
成果発信			
研究成果の計画的・戦略的な普及・発信	研究4-4.1 ①研究成果の計画的・戦略的な普及と発信の重要性を知る	研究4-4.2 ①研究成果の計画的・戦略的な普及と発信ができる	研究4-4.3 ①研究成果の計画的・戦略的な普及と発信について助言し、推進できる
交流			
研究会・学会活動	研究4-5.1 ①研究会・学会活動の意義と方法について知る	研究4-5.2 ①研究会・学会活動を主体的にできる(研究発表、論文発表等)	研究4-5.3 ①研究会・学会活動について支援でき、普及と発信の場の育成に貢献できる
5. 国際化			
国際学会での発表	研究5-1.1 ①国際学会に参加する意義と方法について知る	研究5-1.2 ①国際学会に参加したり、発表できる	研究5-1.3 ①国際学会での発表への助言や発表の場をつくる(企画・運営等)
国際共同研究の推進	研究5-2.1 ①国際共同研究の意義と方法について知る	研究5-2.2 ①国際共同研究について役割を担うことができる	研究5-2.3 ①国際共同研究を支援し発展させることができる
学術国際交流の推進	研究5-3.1 ①学術国際交流の意義と方法について知る	研究5-3.2 ①学術国際交流について役割を担うことができる	研究5-3.3 ①学術国際交流を支援し発展させることができる

4) 社会貢献

社会貢献	レベルⅠ 知る	レベルⅡ 自立してできる	レベルⅢ 支援・指導、拡大できる
1. 社会貢献のあり方	社会1-1.1 ①自大学における社会貢献のあり方を知る	社会1-1.2 ①自大学の理念に基づき社会貢献活動ができる	社会1-1.3 ①自大学の理念に基づき社会貢献ができる環境を整えることができる
2. 看護活動のイノベーション			
ニーズ把握の方法	社会2-1.1 ①社会貢献に必要な社会動向や社会における看護専門職へのニーズを把握するための方法について知る	社会2-1.2 ①最新の社会動向と看護専門職の果たすべき役割について把握できる	社会2-1.3 ①最新の社会動向を把握し、看護専門職が社会において果たすべき役割について、他の教員に助言できる
実践への適用	社会2-2.1 ①最新の研究成果の活用による実践のイノベーションについて知る ②研究成果を応用する際に、必要となる法や制度について知る	社会2-2.2 ①最新の研究成果を活用することで実践のイノベーションに貢献できる ②法や制度をふまえて、研究成果を応用することができる	社会2-2.3 ①最新の研究成果を活用した実践のイノベーションについて、他の教員に助言できる ②法や制度をふまえて、研究成果を応用することについて助言できる
政策への提言	社会2-3.1 ①研究成果を用いた政策への提言方法について知る	社会2-3.2 ①研究成果を用いて、社会の変革に必要な政策を提言できる	社会2-3.3 ①研究成果を用いて、社会の変革に必要な政策の提言を戦略的に行うことができる
3. 地域貢献			
看護の社会的役割や意義(価値、特質)の発信と活用	社会3-1.1 ①看護の社会的役割や意義(価値、特質)の発信について知る ②看護の社会的役割や意義(価値、特質)の活用について知る	社会3-1.2 ①看護の社会的役割や意義(価値、特質)を社会に発信できる ②看護の社会的役割や意義(価値、特質)を用いて、社会に貢献できる	社会3-1.3 ①看護の社会的役割や意義(価値、特質)の発信に向けて、他の教員に助言でき、環境を整えることができる ②看護の社会的役割や意義(価値、特質)を用いた社会貢献について、他の教員に助言でき、組織的な取り組みができる
看護系大学のリソースとしての役割	社会3-2.1 ①地域や自治体との協働により、地域におけるリソースとして看護系大学を活用できることについて知る ②地域貢献のための広報について知る ③地域貢献に関わる法的・倫理的問題と起こりうるリスクについて知る	社会3-2.2 ①地域や自治体との協働により、地域におけるリソースとして看護系大学を活用できることに貢献できる ②地域貢献のための広報活動ができる ③地域貢献に関わる法的・倫理的問題のリスクを回避できる	社会3-2.3 ①地域や自治体との協働により、地域におけるリソースとして看護系大学を活用できるように、環境を整えることができる ②地域貢献のための広報について組織的な取り組みができる ③地域貢献に関わる法的・倫理的問題のリスク回避について、指導・助言ができる
産官学連携の実施	社会3-3.1 ①企業や行政機関との連携事業について知る	社会3-3.2 ①企業や行政機関との連携事業を担うことができる	社会3-3.3 ①企業や行政機関との連携事業の企画・運営ができる

5) 運営

運営		レベルⅠ 知る	レベルⅡ 自立してできる	レベルⅢ 支援・指導、拡大できる
1. 組織と個人の理解				
自大学・学部学科の歴史の理解	運営1-1.1 ①自大学・学部学科の歴史について知る ②自大学・学部学科の歴史について語る場に参加することができる	運営1-1.2 ①自大学・学部学科の歴史について語るができる ②自大学・学部学科の歴史について語る場を作ることができる	運営1-1.3 ①自大学・学部学科の歴史について語るができ、その環境を整えることができる ②自大学・学部学科の歴史について語る場を組織的につくるができる	
自大学・学部学科の理念の理解	運営1-2.1 ①自大学のミッションについて理解し、学部学科のミッションと戦略をつくりあげる必要性について知る	運営1-2.2 ①自大学のミッションについて理解し、学部学科のミッションと戦略をつくりあげることに参画することができる	運営1-2.3 ①自大学のミッションについて理解し、学部学科のミッションと戦略を組織的につくることができる	
大学の組織体制の理解	運営1-3.1 ①大学がどのような組織構成ならびに構成員により運営され、成立しているのかを知る ②委員会とその役割について知る ③意思決定機関について知る ④組織体制上のルールについて知る ⑤大学運営における情報共有の範囲と内容について知る ⑥可能な範囲における権限の分権・委譲について知る	運営1-3.2 ①大学がどのような組織構成ならびに構成員により運営され、成立しているのかを説明できる ②委員会で役割を果たすことができる ③意思決定機関に意見を伝えることができる ④組織体制上のルールをふまえた活動ができる ⑤自身の立場や役割に応じて、大学運営に関する情報共有ができる ⑥可能な範囲で権限の分権・委譲に関わる提案ができる	運営1-3.3 ①大学がどのような組織構成ならびに構成員により運営され、成立しているのかを説明できる ②委員会を組織することができる ③意思決定に関与できる ④組織体制上のルールを導くことができる ⑤大学運営における効率的・効果的な情報共有のシステムをつくることができる ⑥可能な範囲における権限の分権・委譲ができる	
大学の組織人としての態度の理解	運営1-4.1 ①場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとる必要性について知る	運営1-4.2 ①場や状況に応じて、所属する組織を意識した立場・役割をとることができる	運営1-4.3 ①場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとることについて、他の教員に助言できる	
2. 組織文化の創造				
組織文化の理解・醸成	運営2-1.1 ①組織文化とは何であるかについて知る ②自らも組織文化を創ることに貢献できることを知る	運営2-1.2 ①組織文化を理解し、それを維持発展できる行動をとることができる ②自らも組織文化を創ることに役割を果たすことができる	運営2-1.3 ①組織文化を理解し、それを維持発展できるように環境を整えることができる ②組織文化を創るために、環境を整え、他者を支援し、自らの役割を果たすことができる	
自大学・学部学科の組織文化の創造	運営2-2.1 ①自大学・学部学科の組織文化について知る ②変革時の新たな組織文化創造の必要性とそのための場づくりについて知る	運営2-2.2 ①自大学・学部学科の組織文化の強み、弱みを自覚できる ②変革時に新たな組織文化創造の必要性を判断し、創造のための自由な意見交換の場をつくるができる	運営2-2.3 ①自大学・学部学科の組織文化の強み、弱みを自覚した上で、さらに発展できるような組織的な行動がとれる ②変革時の新たな組織文化創造に関する組織的な取り組みを組織し、他の教員を支援できる	
3. 課題解決に向けた組織マネジメント				
組織マネジメントサイクルの理解と活動	運営3-1.1 ①組織マネジメントサイクルについて知る	運営3-1.2 ①組織マネジメントサイクルについて理解し、自分の役割内で参加できる	運営3-1.3 ①組織マネジメントサイクルを推進できる	
課題遂行時のセルフマネジメント	運営3-2.1 ①モチベーションの維持について知る ②タイムマネジメントについて知る ③ワークライフバランスについて知る ④効果的なコミュニケーション(報告・連絡・相談・情報発信)について知る ⑤組織マネジメントに関与しながらの教員のキャリア開発について知る	運営3-2.2 ①モチベーションが維持できる ②タイムマネジメントができる ③ワークライフバランスを意識して活動できる ④コミュニケーション(報告・連絡・相談・情報発信)のスキルを効果的に活用できる ⑤組織マネジメントに関与しながら自らのキャリア開発ができる	運営3-2.3 ①モチベーションを維持・喚起できる環境を整える体制をつくることができる ②タイムマネジメントができる環境を整えることができる ③ワークライフバランスについて他の教員に助言でき、促進する環境を整備できる ④コミュニケーション(報告・連絡・相談・情報発信)について、指導と環境の調整ができる ⑤組織マネジメントに関与しながらの教員のキャリア開発環境を整備できる	
ハラスメント対策	運営3-3.1 ①ハラスメントとは何かを知る ②ハラスメントへの組織的対応を知る ③ハラスメントを予防する対策について知る	運営3-3.2 ①ハラスメントとは何かについて理解し、説明できる ②ハラスメントへの組織的対応体制を適切に利用できる ③ハラスメントを予防する対策をとることができる	運営3-3.3 ①ハラスメントとは何かについて、他の教員に助言できる ②ハラスメント時に最善で透明性のある組織的対応がとれるように、体制改善や関係者への支援ができる ③ハラスメントを予防するシステムをつくり、関係者への支援ができる	
リスクマネジメント	運営3-4.1 ①災害時や日常の危機管理行動、役割行動について知る ②法制度、倫理的問題を含めて起こりうるリスクについて知る	運営3-4.2 ①災害時や日常の危機管理行動、役割行動がとれる ②法制度、倫理的問題を含めてリスクに対処し最小限にする行動が取れる	運営3-4.3 ①災害時や日常の危機管理に関して、環境を整備し、必要時指揮がとれる ②法制度、倫理的問題を含めて、リスクを最小限にする環境を整えることができる	
4. 組織変革時のリーダーシップ・フォローアップ				
	運営4-1.1 ①ビジョンの共有の重要性について知る ②メンバーをエンパワーする必要性について知る ③リーダーシップのあり方と必要性について知る ④リーダーシップ・フォローアップの発揮に必要なコミュニケーションスキルを知る	運営4-1.2 ①ビジョンの共有をふまえて活動ができる ②メンバーをエンパワーできる ③自らのリーダーシップのあり方と必要性を自覚し、必要時、発揮できる ④リーダーシップ・フォローアップの発揮に必要なコミュニケーションスキルを身につけている	運営4-1.3 ①ビジョンの共有に向けて他の教員に働きかけることができる ②メンバーをエンパワーできる組織的な環境を整えることができる ③リーダーシップの発揮について、他の教員に助言できる ④リーダーシップ・フォローアップの発揮に必要なコミュニケーションスキル向上に関して、他の教員に助言でき、支援環境を整えることができる	